

応募者名	株式会社ビーマップ・南海電気鉄道株式会社	分野	交通、物流
取組名称	世界初！無料デジタルチケットシステムで街に賑わいをつくろう！	取組地域	大阪府泉北地域

概要	
取組内容	本システムは人の移動を促すことを目的として、来客者に無料デジタルチケットを提供するサービスである。運賃費用は、集客し集客したい主体側が負担する「受益者負担サービス」となる。株式会社ビーマップは南海電気鉄道株式会社と株式会社NSDが共同開発したヘルスケアアプリへるすまーと泉北とQUADRAC株式会社提供の交通クラウドサービスQ-moveを連携するシステムを開発し、へるすまーと泉北でのポイント交換に関する実証実験に本システムを用いた技術協力を行った。アプリ利用者が自身の貯めたポイントできっぷをもらえることに価値を見出し、アプリ利用の拡大並びに電車で移動するという行動変容を促す取り組みを行った。
実績や効果	【アプリ利用の拡大】 取り組み前1,400DL（ダウンロード）→取り組み後5,700DL、４ヶ月で約４倍に増加。【アプリ利用者の一日当たりの歩数の増加】 令和元年度の成人の一日当たりの歩数は6,278歩であるが、アプリ利用者のそれは約9,200歩であり、大きく上回っている。
取組全体を通じて訴えたいポイント	アプリ利用者の１日の平均歩数は約9,200歩であり、厚生労働省健康日本21（第三次）の日常生活における歩数の増加目標値7,100歩を大幅にクリアしている。また、国土交通省からは歩数の増加に伴う医療費抑制効果について言及されており、アプリの利用拡大は自治体の医療費抑制効果もあると推定している。

詳細	
地域の課題解決・魅力向上	地域に住む皆様の健康増進の一助となるべく、地域に根ざしたヘルスケアアプリの利用拡大を図るという課題を、きっぷという魅力的な特典を配布するサービスを提供することにより解決した。副次的に地域で生活することへ豊かさの付加、地域発着の人の移動を喚起することでの人流や賑わいの創出ができたと言える。
独自性・先進性	コロナ禍を経た昨今、移動の必要性が減少した一方、移動そのものの価値が見直されている・高まっていると着眼してサービスを作り上げた点。また、公共サービスでは一般的である受益者負担原則という考え方を商業活動へ柔軟に当てはめ、新たなビジネススキームを生み出した点に独自性がある。
持続性・発展性	お客様＋交通＋人の移動・行動による集客で利益を生み出すことができる受益者の関係は一時的なものではなく、「移動による喜び」を喚起することにより、持続性があるサービスとなる。また、様々な交通事業者が参加すること、複数の受益者が一つの取り組みに参加することができ、発展性も兼ね揃えるサービスである。
他地域への横展開	今回の取り組みでは鉄道が対象であるものをご紹介しているが、本サービスのスキームは鉄道に限定されず、様々な交通事業者を対象としている。また、都市部・地方を問わずそれぞれの地域に人が居住し、交通事業が運営されていることを考えると、他地域への横展開は大いに可能であると言える。
取組を進めるうえで苦勞した点	取り組みには複数の事業者・複数のシステムが存在しており、取り組みの効果が上がるように各者の意識統一を丁寧に図ることや、複数あるシステムを誤りなくつなぎ込み、正しく動作させることへの準備を十分に行うことへ力を注いだ。
取組の成果を上げることが出来た秘訣・工夫	アプリ利用者が健康増進への取り組みでポイントを貯めるという仕組みはあったものの、ポイントを交換できる対象が限られていたという状況があった。そこへ「きっぷがもらえることはきっと魅力的なことだ」という考えのもと、新たな交換対象を提供したことにより、アプリ利用の大幅な活性化につながった。
今後の展望	今回の実証実験ではきっぷ、移動そのもの、移動したことによって得られる体験に価値があることが証明できたと考えている。私たちは人の移動を促す本システムを提供することで、多種の受益者と交通事業者を結びつけ、都市部・地方を問わず、人の移動による地域の賑わいの創出を目指す。